
参考2

まちの事例集

- ・新百合ヶ丘駅周辺のまちづくりの検討の深度化に向けて、特色あるまちづくりの事例や、先駆的な取組を集め、「まちの事例集」として、取りまとめました。
- ・この「まちの事例集」は、地域の方々等とのまちづくりについての意見交換や検討の深度化を図るためのコミュニケーションツールとしても活用します。

南町田グランベリーパーク

■まちづくりの経緯

グランベリーモール (2017年2月閉館)



南町田駅周辺は大規模商業機能を集積しながらも、鶴間公園や境川などの豊かな自然資源が残る郊外住宅地であり、町田市の交通結節拠点として発展してきました。

近年、駅周辺での大規模な交通環境の整備に伴い、若年ファミリー層の流入が進んだ一方、後背住宅地では、高齢化が進んでいました。また、たまプラーザ駅や二子玉川駅等の周辺エリアでの大規模商業施設の集積が進む一方、当地区の商業機能の要であったグランベリーモールは、暫定的な土地利用を想定して整備されたものであり、施設の陳腐化が進んでいました。

特に、駅に隣接して大規模な商業機能や公園が立地するなど豊かな地域資源が集積している一方で、それぞれが道路によって分断されており、地域資源を充分活用できていない状況にありました。

整備前の南町田周辺の状況



商業エリアと鶴間公園の境界が道路(車道)によって分断

■取組内容

鉄道駅と都市公園、商業施設が隣接するという南町田ならではの資源を活かし、まち全体を一つのパークとして計画。

既存道路により分断されていた街区構造を抜本的に見直し、道路の付け替えを行うことで歩車分離かつバリアフリーにつなげる歩行者空間を創出。商業施設と都市公園の間に文化・交流施設からなる「パークライフ・サイト」というコミュニティ拠点を配置し、エリア一体をつなぎ目のない連続的な空間とした。

パークライフ・サイト



ミュージアムやライブラリー等の施設を有するエリア。公園・商業施設と連携し、幅広い世代の方の新たな時間の楽しみ方を実現。

グランベリーパーク



駅・公園と融合した時間消費とエンターテインメントの要素を兼ね備えたオープンモール型の商業施設。

南町田グランベリーパーク駅



駅北口から駅南口、商業施設、鶴間公園までつながる歩行者通路を整備。駅構内は自然を感じられる空間とし、駅とまちが一体的に。

鶴間公園



腰を掛ける場所や歩きやすい園路等を設けるとともに、スポーツを楽しめる環境を整備し、「質」の高い公園に。



車道が歩道となり公園と商業施設が一体に



＜各エリアの歩行空間＞

グランベリーパーク



鶴間公園



パークライフ・サイト



二子玉川東地区のまちづくり

■昔の二子玉川駅周辺地区



【出典：二子玉川ライズホームページを元に作成】

二子玉川駅周辺地区は都心へのアクセス性が良く、東急田園都市線、大井町線、国道246号線といった交通の要衝として発展してきました。

一方、以下のような課題を抱えており、まちづくりへの取組が行われるようになりました。

<地区の課題>

- 低層、空地などの低未利用な土地利用
- 駅前に求められる多様な都市機能の不足
- 交通動線の輻輳による安全性・利便性の懸念
- 公園や多摩川など地域資源との連携不足

■まちづくりの特徴

- ✓駅前の合理的な高度利用によるポテンシャルを活かしたまちづくり
- ✓商業・ホテル・オフィス等の多様な機能を集積したコンパクトなまちづくり
- ✓公園などと連携した空間づくり
- ✓駅と各機能を接続するリボンストリートと効率的な機能配置による回遊性や賑わいの向上
- ✓外周の道路や交通広場等の交通基盤とリボンストリートの整備による安全性・利便性の向上

■取組内容

ガレリアを利用したイベント



多彩なイベントを行うことができる空間を整備することで、賑わいを創出

交通広場



駅から商業施設を挟んで交通広場を整備することにより回遊性・利便性を向上

各機能をつなぐリボンストリート（歩行者専用通路）



駅からガレリアを通り、二子玉川公園まで続くリボンストリート（歩行者専用通路）を整備し、安心安全の移動環境を確保するとともに、日常的な人々の往来による賑わいを形成



商業・オフィス・住宅の複合用途を集積し、多様な人々の来訪や滞在を促進



ショッピングセンターの屋上にエコミュージアムを整備し、多摩川の原風景を再現し、地域の生態系の保存とともに教育の場を提供

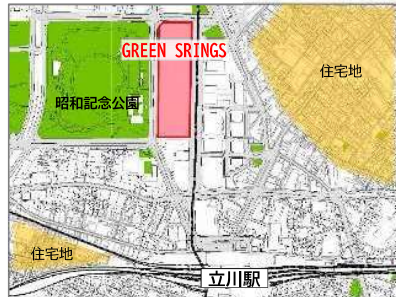


駅前の賑わいから始まり、華やかな商業ゾーンを抜けて、居住ゾーンへと進むにつれ自然が色濃くなり、二子玉川公園から多摩川へと一体的なつながりを創出

【出典：東急㈱、二子玉川ライズホームページを元に作成】

GREEN SPRINGS

GREEN SPRINGSの立地



【出典：国土地理院「基礎地図情報」、国土交通省「国土数値情報（都市計画決定情報）」を元に作成】

GREEN SPRINGSは、立川駅北口から徒歩約8分の位置に立地しており、都心へのアクセス性も良好な地区に位置しています。

周辺には昭和記念公園があるほか、住宅地なども広がっており、質の高い豊かな都市環境を有するエリアとなっています。

まちづくりの特徴

コンセプト

空と大地と人がつながる、ウェルビーイングタウン

- ✓ 多様な都市機能の集約
⇒ 来街者の増加や滞留・交流の創出
- ✓ 広場を中心とした各機能の連続性の確保
⇒ 滞留空間の創出や活動の促進
- ✓ 昭和記念公園との連続した自然環境の創出
⇒ 豊かな居住環境のさらなる高質化



【出典：立川ホールディングス、GREEN SPRINGSホームページを元に作成】

取組内容

パブリックアート



街区内に様々なパブリックアートを設置し、心豊かにする出会いを創出

中央広場の豊かな緑地空間



多様な施設の中央に位置することで、施設間をつなぐとともに、一年中美しい草花が咲き誇る緑豊かな空間を提供

広場中央のオープンカフェ



軒を大きく伸ばし、開放的なテラス空間を創出。豊かなくつろぎ空間を提供

子供が自由に遊ぶ広場×美術館



子供のための屋内広場とともに美術館が併設され、豊かな知育環境を提供



【出典：立川ホールディングス、GREEN SPRINGSホームページを元に作成】

自由な活用場「リビングルーム」



広場の一角を「リビングルーム」として来街者が自由に使える場として開放

ビオトープ



メダカやアメンボ等の様々な生き物が生息し、豊かな環境を提供

水の流れる階段「カスケード」



かつてこの地にあった飛行場の滑走路をモチーフに開放感のある空間を提供

日本一開かれたホール



2階の客席後方のスライディングウォールを開放すると緑豊かなGREEN SPRINGSと繋がりが一体的利用が可能

【出典：立川ホールディングス、GREEN SPRINGSホームページを元に作成】

パルテノン多摩

■パルテノン多摩の立地



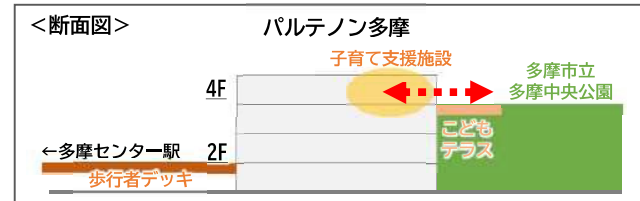
■多摩中央公園の概要

- ✓多摩中央公園を中心に、パルテノン多摩や図書館が一体的に活用できるような仕組みづくりに取り組む
- ✓市民が集い、健康で幸せを実感できる健康まちづくりに寄与するとともに、市内外から人が集い・働く・活気と魅力あふれるまちづくりを目指す



■取組内容

パルテノン多摩では、エリア全体の魅力高めるとともに、付加価値をつける施設となるために、多摩中央公園や周辺施設等とのつながりを重視とした施設を目指し、子育て支援機能の充実化と多様な世代の交流空間づくりに取り組んでいます。



多摩センター駅～多摩中央公園の間に高低差があり、パルテノン多摩は駅と2階レベル、多摩中央公園と4階レベルで接続しています。

子育て支援施設は4階の多摩中央公園と連続する位置に配置され、各施設の機能が連携し、様々な活動が形成されています。



【出典：多摩市、パルテノン多摩、パルテノン多摩こどもひろばOLIVE、多摩中央公園ホームページを元に作成】

アルテリッカしんゆり

■アルテリッカしんゆりの概要



新百合ヶ丘駅周辺には昭和音楽大学や川崎市アートセンター等の多様な文化施設や芸術系大学が集積するほか、芸術家や芸術に造詣の深い方が多く在住し、市民主体の芸術活動が根付いています。

街が一丸となって芸術の”祭り”を創出していこうと2009年に始まったのが「アルテリッカしんゆり（川崎・しんゆり芸術祭）」です。市民が主体となり、オペラ、オーケストラ、室内楽、ジャズ、バレエ、演劇、能、狂言、和太鼓、落語、美術展、映画など様々なジャンルが一堂に揃う総合芸術祭を、毎年ゴールデンウィークをはさんだ4月～5月の約1カ月に亘り40を超える公演を開催しています。

16回目の開催となったアルテリッカしんゆり2024では、「緑と水のアート」と題したプレ・イベントを開催し、演目・公演数は41演目・59公演となりました。



■取組内容

①川崎市アートセンター アルテリオ小劇場



【出典:アルテリッカしんゆりホームページ】
かわさき産業親善大使や玉塚等の元スターたちが集結した唯一無二の豪華レビューや、赤ちゃんと大人に向けたオリジナルの体験型演劇などを開催。

③川崎市麻生市民館 大ホール



【出典:アルテリッカしんゆりホームページ】
人間国宝の競演による伝統芸能の公演や和太鼓の演奏、昭和音楽大学の学生も参加するクラシックコンサートなどを開催。

④新百合トウェンティワンホール



【出典:アルテリッカしんゆりホームページ】
麻生区美術家協会や麻生区文化協会の芸術作品を展示。その他、昭和音楽大学卒業生によるジャズライブや落語家による寄席公演などを開催。

⑥昭和音楽大学 テアトロ・ジョーリオ・ショウワ



【出典:アルテリッカしんゆりホームページ】
歴史ある歌劇団によるオペラや国内外で活躍するピアニストの演奏、昭和音楽大学にゆかりのあるロックバンド「KEYTALK」のライブ等を開催。



②川崎市アートセンター アルテリオ映像館



【出典:アルテリッカしんゆりホームページ】
2024年は「緑と水」をテーマに、様々な映画特集を上映。上映後には映画監督や日本映画大学の教授によるアフタートークが行われた。

⑦昭和音楽大学 スタジオ・リリエ



【出典:アルテリッカしんゆりホームページ】
昭和音楽大学ミュージカルコースの卒業生によるミュージカル・ライブを開催。

⑤昭和音楽大学 ユリホール



【出典:アルテリッカしんゆりホームページ】
昭和音楽大学卒業生によるクワシックコンサートや朗読と音楽を掛け合わせた公演、世界的に活躍するアーティストの演奏などが行われる。

⑧川崎市多摩市民館



【出典:アルテリッカしんゆりホームページ】
川崎市多摩区を地元とする団体によるオペラや、公募の市民・市内の劇団・演劇人等による川崎の歴史等をテーマにした創作劇を公演。

【出典:アルテリッカしんゆりホームページを元に作成】

大正大学「すがもオールキャンパス」

■巣鴨でのまちづくりの背景



【出典：豊島区ホームページ「TKE-CIRCLE」】

JR巣鴨駅から徒歩10分に位置する「巣鴨地蔵通り商店街」は、かつて「おばあちゃん原宿」と呼ばれ、高齢者が多く行き交う商店街でした。一方、巣鴨地蔵通り商店街は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、高齢者の来訪が減少し、シャッターを閉める店舗も出ていました。

そういった中、地元の大正大学は豊島区と包括協定を締結して、地学協働によるひとづくり・まちづくりを実現する「すがもオールキャンパス」というプラットフォームを構築しています。

■まちづくりの特徴

✓ 巣鴨駅から大正大学までのエリアに、学生が地域・企業と連携しながら実践的な学びを深める場として、多彩な施設「すがも街なかキャンパス」を開設

✓ 地元商店へのインターンシップや学生主体のイベント等、地域に学生が入りこんでいく取組も実施

✓ 巣鴨ならではのレトロなまちなみと若者向けの店舗の増加
→ 高齢者だけでなく若者の来訪も増加

✓ 地域間・多世代の交流を促進

✓ 若者が主体となったまちづくり活動

■主な取組内容

すがも街なかキャンパス MAP

大正大学は巣鴨エリアに「すがも街なかキャンパス」を開設しました！キャンパス内には教室やカフェ、アンテナショップなど学生の学びと地域の活性化を支える多彩な施設が展開されています。

- 教室（学ぶ）
- モニュメント・建造物（楽しむ）
- レストラン・お店等（食べる・買う）



2024年11月11日現在

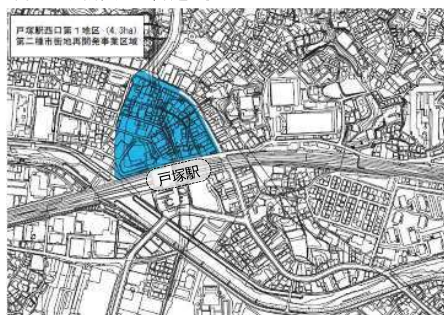
【出典：大正大学ホームページを元に作成】

戸塚駅周辺のまちづくり

■戸塚駅周辺のまちづくりの経緯

戸塚駅周辺は、東海道の宿場町として栄えてきた歴史ある街であり、戦後は都市化の流れの中で、大規模な商店街に発展しました。その後、後背地の急激な市街化により、戸塚駅の乗降客は地下鉄も含めて1日約29万人(H19統計)に増加しました。この受け皿となる戸塚駅周辺の都市基盤は、東口の一部を除いて未整備な状態が続いていました。

特に西口においては、バスセンターの位置がわかりにくく、地区内の道路が狭く駐車場も少ないなど、来街者にとって大変不便な状況になっていました。また、密集した木造家屋の老朽化も目立ち、防災上の課題も抱えていました。



○整備前

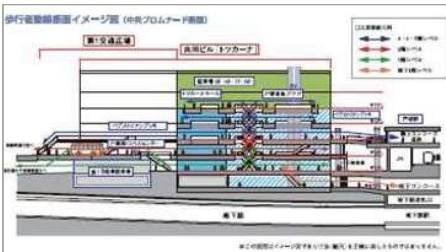


○整備後



■取組内容

施設整備計画について



●分散型の交通処理計画

- ・バスについては、駅前道路に降車場を設け、第1交通広場に乗車場を設けています。
- ・タクシーについては第1交通広場と第2交通広場に、一般車は第2交通広場に乗降場を設けています。
- ・このように分散型とすることで、交通広場の出入口や交通広場の接続する道路の交差点などへの交通集中を避け、安全で円滑な交通処理計画としています。

●分棟型の施設計画

- ・トツカーナモールと戸塚東急プラザが一体となった共同ビル「トツカーナ」、11棟の個別ビルと高架下の4店舗からなる「戸塚バルソ」、区役所や区民文化センター等を整備する公益施設を配置しています。
- ・これらの多機能な施設を用途毎に分けて建築する分棟型の施設計画としています。

●中央ブロムナード

- ・戸塚駅と第1交通広場を結ぶ歩行者専用通路を設置しています。
- ・戸塚駅とは3階と地下1階で連絡し、エスカレーターやエレベーターを利用して、第1交通広場(2階レベル)まで安全かつスムーズに移動できるバリアフリー計画としています。
- ・中央ブロムナードからは、さらに大踏切方面や清源院方面へと接続します。

●地元店舗の配置計画

- ・戸塚駅前商店街の街並みや界限性の再現など、様々なニーズへの対応が可能となるよう、共同ビル「トツカーナ」は中央ブロムナードや清源院方面を結ぶ歩行者動線に沿って間口型店舗を配置しました。また、個別ビル「戸塚バルソ」に商業施設等を配置しています。
- ・共同ビル「トツカーナ」の地下1階「エクール」と「スーパーマーケット」は連携しながら、魅力あるデイリー&フードフロアを目指します。

施設配置図と完成した施設



公共施設

平成19年10月から、公共工事に着手しました。
第1交通広場(第1自転車駐車場、戸塚西口バスセンター、デッキ、タクシー乗降場)、駅と共同ビルを連絡するデッキ及び地下通路を整備し、平成22年4月から供用を開始しています。
戸塚西口バスセンターには乗降車合わせて10バスを配置。バスセンター横のタクシー乗り場は25台の収容能力があります。
バスセンター下には、バイク(125CC以下)1,800台、自転車1,300台 計3,100台を収容できる自転車駐車場を整備しました。



駅前デッキ

第1交通広場デッキ

公益施設

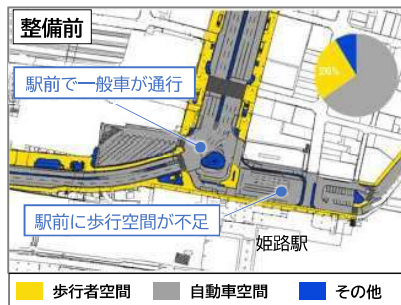
第1段階工事で整備したトツカーナ・戸塚バルソに引き続き、第2段階工事における再開発ビルとして公益施設を整備しました。公益施設の整備にはPFI手法を活用しています。
公益施設には区役所、区民文化センター、第2交通広場(一般車・タクシー乗降場)、自転車駐車場、店舗等を整備したほか、市民利用ゾーンとして区民間や情報コーナー、子育て支援スペース、食堂、多目的スペースを設置しています。
公益施設から戸塚駅へは地下1階の通路と3階のデッキで直結し、3階でトツカーナとも連絡ブリッジでつながりました。



姫路駅周辺のまちづくり

■背景

姫路市の都心部では、鉄道と道路との交差点で激しい交通渋滞が発生し、南北市街地の発展の妨げとなっていました。その中、新幹線が高架による工事を進めていたことから、鉄道高架の機運が高まり、駅周辺の土地区画整理事業と併せて連続立体交差事業を実施し、新たな駅前広場の整備が課題となりました。



【出典：国土交通省「道路のユニバーサルデザイン化推進のための参考事例集」を元に作成】



特に、駅前においては多くの来街者が往来するものの、歩行者空間が不足しており、自動車優先の空間となっていました。

- ✓ 車中心から人中心のまちづくり
⇒ 駅前への自動車の侵入を抑制し、歩行者中心の駅前広場を整備することで、滞留空間やにぎわいを創出
- ✓ 交通利便性の高い安全なまちづくり
⇒ トランジットモール化やバス・タクシー乗り場の集約により、歩行者の安全な動線確保するとともに、交通結節点としての機能を向上

■トランジットモール

トランジットモールとは、一般車両の通行を制限してバスやタクシーなどの公共交通機関のみの運行とし、空いたスペースを公園など市民の憩いの場にするものです。姫路駅前では、幹線道路の一部をトランジットモール化することで、駅前に豊かな歩行者空間を創出するとともに、公共交通の良好なアクセス性を確保しています。

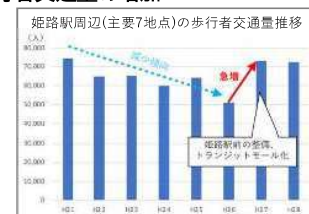


【出典：国土交通省「道路のユニバーサルデザイン化推進のための参考事例集」を元に作成】



■整備の効果

- ✓ 歩行者交通量の増加



【出典：国土交通省「道路のユニバーサルデザイン化推進のための参考事例集」】

- ✓ 駅乗降客数の増加、駅周辺の地価上昇
- ✓ 駅周辺の店舗面積の増加 など

■その他空間整備



駅周辺に分散していたバス・タクシーの乗り場を集約することで利便性を向上。さらに、トランジットモール化により一般車との動線交差を解消。



誰もが気持ちよく利用できるくつろぎにぎわいの空間を創出。イベント等での広場の活用によりまちの活性化とにぎわい創出に寄与。



2Fレベルで連絡デッキを整備し、JR姫路駅とバスターミナルや山陽電鉄姫路駅、商業施設等の周辺施設を接続する安全で快適な動線を確保。



石垣などの姫路城をイメージさせるデザインを施し、周辺には芝生広場を整備。水と緑にあふれた憩いの場を提供。

【出典：国土交通省ホームページ、姫路市ホームページ、姫路市「姫路市都心部まちづくり構想」を元に作成】

緑を活かしたまちづくり

公園や緑地などのまちの余白の活用

◎新しい公園・緑地の設え方

■新しい緑地の在り方 ～スペルノーヴァカワサキ～

川崎駅周辺に立地するエンターテインメント施設「スペルノーヴァカワサキ」では、川崎市と民間企業が連携して市の土地を有効活用し、既成の公共的な緑地に捉われない新たな緑地空間を整備しています。

スペルノーヴァカワサキは川崎駅から地上高さ約6mの歩行者デッキにより接続された終端に位置しており、市の緑地として市民に開かれた空間とすることが求められていました。よって令和5年10月に、屋上に芝生広場を有するエンターテインメントホール（ライブハウス）「スペルノーヴァカワサキ」を整備しました。



スペルノーヴァカワサキでは、建物や地面に立体的に緑を配置して都市的な緑地空間を創出しています。特に、JR川崎駅までつながる歩行者デッキと接続した屋上庭園を前提に、ライブハウスに必要な規模のホールを配置することで、起伏のある屋上庭園が実現しました。



歩行者デッキから見た風景
川崎駅から続く歩行者デッキと2階レベルで接続し、安全でスムーズな回遊動線を確保



屋上庭園
屋上庭園は施設利用者となくとも利用でき、日常的な休息や交流の場として機能

【出典：川崎市ホームページを元に作成】

■多様な過ごし方が混ざり合う公園の設え ～稲毛公園～

川崎市では、川崎駅周辺の公共空間等を活用した回遊性の向上と滞留空間としての活性化を目的に、令和6年3月に稲毛公園のリニューアルを行いました。



リニューアル前の稲毛公園は、川崎駅周辺かつ大通りに面していることから人の往来はありましたが、無機質な空間となっており滞留空間としての認知度は低い状態でした。

そこで、ちょっとした作業や仕事の場としても利用でき、本を読んだり思索にふけったり、自分自身と向き合う時間を過ごすことができる落ち着いた環境・設えを整え、公園で過ごす人々の重なり合いから新しい文化や交流が生まれる空間としました。

<稲毛公園で整備された多様な過ごし方が混ざり合う公園の設え>



他人とのつながりや地域の文化を踏まえ水の動きをモチーフにしたテーブルやイス



土地の歴史をイメージした植栽帯、公園のキャラクターを演出するベンチ



心地よく利用できるように傾斜や植物を計画した芝生広場



夜ならではの演出性や安心感を高めるライトアップ

【出典：parkERsホームページを元に作成】

緑を活かしたまちづくり

時代をとりまく緑のニーズ ～人々の緑に対する意識の変化～

- ・近年、社会情勢の変化などに伴う価値観の多様化により、人々が求める緑の在り方が変化してきています。
- ・多様な価値観に対応しつつ、緑がもつポテンシャルを最大限発揮するため、これまでの「量」を重視した緑の整備から「質」を重視した緑の整備が行われています。

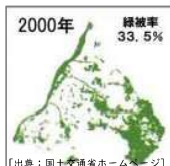
◎豊かで質の高い緑の整備手法

■「緑のまち」を象徴する緑の見せ方 ～「緑被率」から「緑視率」へ～

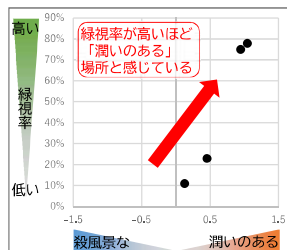
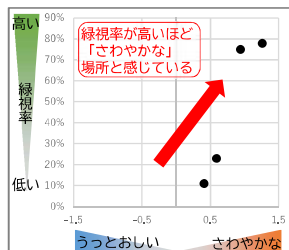
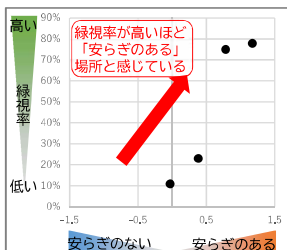
緑の整備において、これまでは敷地における緑地面積の割合＝緑被率が重要視されていました。

一方、近年では実際に住民の目に入り、緑の恵みを受受できる緑の整備などに向けて、人の目線に占める緑の割合＝緑視率が重要視されています。

緑視率の向上は、人々に安らぎやさわやかさ、潤いなどを感じさせます。



【アンケート調査による場所のイメージと場所の緑視率との関係】



■緑視率を重視した立体的な緑 ～アクロス福岡での取組～

アクロス福岡では屋上緑化による立体的で豊かな緑の整備により、都市に様々な効果をもたらしています。



○1995年の様子（竣工当時）

アクロス福岡は建物全体を「山」に見立て、四季折々の自然の変化を楽しめるように計画されました。通常の屋上緑化とは異なり、建物のテラスを階段状に連続させて緑化することにより、建物全体が緑化されているように見えます。植栽は福岡周辺の山や地元の生態系に見られる多様な植物を選び、低木だけでなく中高木も含めた混植として76種、3万7000本の木々が植えられました。



○2017年の様子

1995年から植物が成長してスケールの大きな緑の空間となったことにより緑視率が上昇し、安らぎや潤いのある特徴的な景観を形成しています。

また、多様な植物の存在によって集まった鳥類や昆虫類が新たな植物の種子を選び、現在では樹種が200種類を超えるなど、「山」のように多様な植栽・生態系が実現しています。

なお、屋上緑化により夏季の周辺気温が低くなるなど、まちなかの環境改善にも寄与していることがわかっています。

【出典：アクロス福岡ポータルサイトを元に作成】

■建築や都市に自然を取り込む「バイオフィリックデザイン」

「バイオフィリックデザイン」とは、「人間には“自然とつながりたい”という本能的欲求がある」という概念を空間に反映し、建築物に植物、自然光、水、香り、音等の自然環境の要素を反映したデザインを指します。

バイオフィリックデザインを屋内外に関わらず、建築や都市空間に取り入れることにより、Well-beingに寄与する様々な効果が期待されます。

■バイオフィリックデザインの効果 ～JR熊本駅ビルでの取組～

JR熊本駅ビルは、JR九州が目指す「住みたい、働きたい、訪れたい」駅を中心としたまちづくりの中核施設として2021年に整備されました。施設は、1～8階が小売店や飲食店、映画館、結婚式場、9～12階がホテルで構成されています。



また、JR熊本駅ビルでは人々の生活の中で身近に自然を感じられる居場所を提供するため、バイオフィリックデザインを取り入れた空間が整備されています。より実際の自然に近い環境を実現するため、屋内と屋外で連続したバイオフィリックデザインの空間を実現し、建物内外でのWell-beingを向上させています。

<JR熊本駅ビルにおけるバイオフィリックデザインの効果>



【水と緑の立体庭園】

- ・日本の在来種を中心とした約50種類の植物
- ・熊本県の鍋ヶ滝を再現した水と緑が調和した空間
- ・植物の最適な生育環境を目指した自然光の差し込み

✓来場者の3割が立体庭園を利用

✓立体庭園利用者は、立ち寄り店舗数が約1.5倍、駅ビル滞在時間が約1.4倍に増加傾向



【滝から発生する風】

- ・1階の滝の近くでは、滝から風が発生
- ・高さ約10mの滝から発生する気流が立体庭園全体の空気を動かす

✓水景と合わせてリラックスできる空間を創出

✓自然的な風環境により、特に1階では約9割が魅力度が高いと評価



【滝から発生する音】

- ・上層階から低層階まで流れる落差約10mの滝
- ・室内環境として心地よく滝の音が聞こえる計画
- ・施設各所で、変化のある音を楽しむことができる

✓1階は8割以上、5階でも7割以上が魅力度の高い音環境と評価



【自然光の空間】

- ・7層吹き抜けで、階段状にフロアを積層させることで、自然光が8階から1階まで降り注ぐ
- ・照明も外の環境と対応した演出として、自然的な明るさを実現

✓やわらかい自然光により、各階で7割以上が魅力度の高い光環境と評価

✓顧客満足度の高い商業空間が期待

立体庭園をシンボルに、エリアー体のイメージ向上
「新しい」「美しい」「心地よい」、つい語りたくなる空間に

【出典：日建設計ホームページを元に作成】

緑を活かしたまちづくり

公園や緑地などのまちの余白の活用

◎新百合ヶ丘駅周辺地区での取組

■公共空間の利活用 ～万福寺檜山公園の取組～

川崎市では、新百合ヶ丘駅周辺の地域資源かつ公共空間である道路や広場、公園緑地等のポテンシャルを最大限に活かしながら、まちの新たな魅力やにぎわいを創出するため、公共空間でのイベントを通じた利活用に関する実証実験に取り組みながら、まちづくりにおける公共空間の今後の有効活用の方針について検証を進めています。

万福寺檜山公園では、新百合ヶ丘駅の高い立地性（交通結節機能）と周辺に点在する緑の質が両立している特徴を活かし、まちの更なる魅力向上を目指して、まちの中心における緑の役割を検証するため、活用検証を行いながら駅周辺に求められる「緑×〇〇」の都市機能を検討しています。

令和4年12月に実証実験第一弾を行い、以降計8回、公園の魅力を活用した様々なイベントを実施しています。



<万福寺檜山公園でのイベントの風景>



【その他の公共空間の利活用】歩行者デッキ下の道路空間の利活用

川崎市では令和5年度から、新百合ヶ丘駅南口周辺の更なる公共空間活用に向けて、万福寺檜山公園に加えて新百合ヶ丘駅南口デッキ周辺も対象として、公募によりアイデアを募集し、まちづくりに資する取組についてはトライアル実施に向けて協働しています。

これまでに、南口歩行者デッキ上の未利用箇所やデッキ下の広場において、隣接する商業事業者とも協力しながらオープンカフェなどの人の滞留空間を設置する公共空間の活用可能性を検証するイベントを行っています。



<令和5年度の取組>

●イオン前（デッキ上）



●オーバ前（デッキ下）



緑を活かしたまちづくり

まち全体で緑を育むきっかけづくり

◎地域ならではのまちなみを実現・維持するためのルール ～まちなみデザイン逗子～

■地域と一緒に考える景観形成 ～逗子市での取組み～

今後、居心地がよく地域ならではの魅力が感じられる個性的なまちなみを形成するためには、住宅地等の身近な空間を含めた民有地の緑化も必要であり、官民が連携して地区全体で景観づくりに取り組むことが重要です。

逗子市では地域ならではの風景を保全するため、「まちなみデザイン逗子」を作成し、地域全体で景観を形成する啓発を行っています。

■まちなみデザイン逗子の概要

逗子市は、海や丘陵などの豊かな自然や、低層の住宅、ヒューマンスケールの街路等で形成されたまちなみが特徴でしたが、1964年の東京オリンピック以降、道路や都市機能、住宅地の整備等によって「逗子らしい風景」が失われつつあることをきっかけに、市民への景観意識の普及と、地域の緑化に関するルールづくりを促進することを目的として、「まちなみデザイン逗子」を市民主体で作成しました。

まちなみデザイン逗子には、逗子らしい魅力のあるまちなみを形成していくために、市民一人ひとりが、身近に取り組みやすく効果が期待できる緑化や景観づくりの具体的な方法等が示されています。



<まちなみデザイン逗子における主な取組>

【身近な場所から始めるまちなみ形成の提案と「逗子らしさ」の認識の共有】

✓宅地を緑化する際のポイントを例示



民有地に具体的に緑化できるポイントを明示

✓ポイントに応じた緑化方法の例示



緑化するポイントに応じた具体的な緑化方法を例示

【取組を実現するための具体的な検討事項】

事例を元に、周辺と連続性のある空間デザインや整備費用、利用した助成制度等について紹介

【取組を広げるための仕組み】

住民主体のまちのルールづくりの方法や参考事例、それらを支援する行政の体制・制度等を紹介

地域全体で逗子らしいまちなみを実現・維持していくことを推進

■さらに活動を広げていくための取組 「まちなみデザイン逗子賞」

逗子市では、まちなみの良さを市民に再認識してもらい、将来的により豊かな自然と調和した潤いのある景観が形成されることを目的に、景観形成に寄与している建築物、工作物、外構、広告物、活動（美化活動など）について募集を行い、「まちなみデザイン逗子」の実践スポットとして認定しています。中でも、特に地域のシンボルのような役割を担っている事例や、逗子らしい景観形成の模範となる優良事例を選出し、表彰しています。

それらの認定スポットや逗子市の景観資産スポットは、まちなみデザインマップとして公表されており、地域住民などが実際に見ることなどによって、取組に参加するハードルを下げ、まちなみ形成への関心を高める効果を期待しています。

<まちなみデザインマップと認定スポット>



「車」中心から「人」中心のまちづくりへ

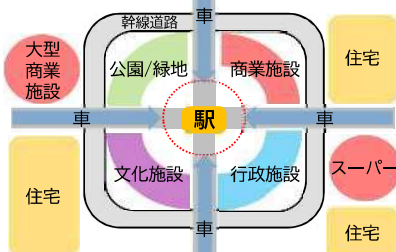
「人」と「車」のすみ分けによる安全・安心かつ円滑な交通環境の形成

・近年、社会情勢の変化や価値観の多様化などによって、駅周辺に求められる交通機能の在り方が変化してきています。

◎駅周辺の交通機能の平面的なすみ分け

<これまでの「車」中心のまち>

- ・駅前まで車の交通が入り込み、歩車が混在
- ・都市機能が車の交通で分断される
- ・車の動線を確保するため、まとまった空間がない

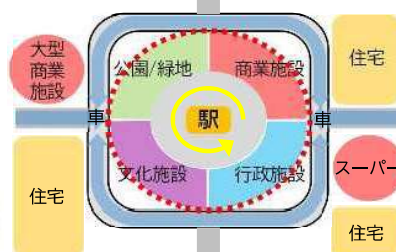


【イメージ】

- ・駅前の狭い道路に車交通が集中
- ・歩行者と車双方の交通負荷がかかる
- ⇒ 駅前にて交通渋滞が慢性化
- ・歩行者が集中する駅中心部にて歩行者と車が混在
- ⇒ 事故の危険性などが高い歩行環境
- ・各施設が道路で寸断され、回遊性が低い
- ・歩行者が滞留できる空間がない
- ⇒ 駅前で賑わいが生まれない空間

<これからの「人」中心のまち>

- ・駅外周で車の交通を処理し、駅前は歩行者中心
- ・都市機能が歩行者動線でつながる
- ・駅前に歩行者が利用するまとまった空間を確保



【イメージ】

- ・駅の外周部にて車交通を処理
- ・歩行者と車でそれぞれ異なる動線を利用
- ⇒ 駅前で交通渋滞が緩和
- ・駅中心部から車動線を排除
- ⇒ 安全・安心な駅前空間を確保
- ・各施設が歩行者動線で接続
- ・各施設と連携して、一体的な滞留空間を確保
- ⇒ 居心地が良く歩きとなるまちなかへ

【出典：国土交通省「駅まちデザインの手引き」を元に作成】

【具体的な取組の事例】姫路駅周辺のまちづくり

姫路駅では「トランジットモール」の実現によって、人中心のまちづくりを行っています。

<トランジットモールとは>

駅周辺などのまちなかにおいて、歩行者と公共交通（バスや路面電車など）のみが通行する空間。まちなかでの移動やまちなかと周辺市街地をつなぐ公共交通を確保しつつ、安全で快適な歩行空間が創出。



<姫路駅周辺での人中心のまちづくりの効果>

- ✓ 駅乗客数の増加(2005→2015：約13%増)
- ✓ 駅前の歩行者交通量の増加(2011→2015：約12%増)
- ✓ 駅周辺の地価上昇(2018→2019：約25%増)
- ✓ そのほか、駅周辺の店舗面積の増加など

【出典：国土交通省ホームページ「分野間連携の先行的取組事例集」、国土交通省 第33回全国駐車場政策担当者会議 資料を元に作成】

◎立体的な空間活用による立面的なすみ分け

・平面的な動線のすみ分けだけでなく、近年は立面的なすみ分けも行われています。

■立面的なすみ分けの考え方

特に既存の建物などが密集し、歩行者用のまとまった空間を確保できないような駅周辺地域においては、歩行者デッキなどといった道路とは異なる高さの歩行者動線が整備されています。

歩行者デッキは、鉄道駅やバスターミナル、自由通路や階段、駅前広場、歩道などの交通機関と接続するほか、近年では民間事業者との官民連携により、民間施設との接続も行われています。



歩行者・自動車動線の立体的なすみ分けのイメージ

<立面的なすみ分けによる効果>

【歩行者目線】

- ・車交通がない安全・安心の通行環境
- ・交差点がないため、速達性が向上
- ・地形などによらない、高低差のない快適な動線
- ・各施設と連携した一体的な賑わいの形成、滞留空間の創出

【車利用者目線】

- ・歩行者がない安全な通行環境
- ・歩行者との平面交差が減少し、交通負荷が軽減
- ・車の交通空間を充分に確保し、円滑な通行

【出典：一般財団法人道路新産業開発機構「道路関連施設整備支援に関する調査研究(平成26年8月)」を参考に作成】

【具体的な取組の事例】二子玉川駅周辺のまちづくり

二子玉川駅周辺では、オフィスや店舗、ホテル、住宅などの多様な都市機能が整備され、それら都市機能の外周に幹線道路が整備されました。駅から各施設への歩行者動線はリボンストリート（歩行者専用通路）で道路より上空に整備することで、自動車と歩行者動線の立面的なすみ分けによる効果を生み出しています。

また、オフィスや店舗、駅などにアクセスしやすい位置に交通広場を配置することで、周辺地域から公共交通等によるアクセス性も確保しています。



出典：国土交通省HPより

「車」中心から「人」中心のまちづくりへ

駅前空間におけるウォーカブルなまちづくり

・駅中心部の歩行者中心の空間においては、ウォーカブルなまちづくりによる「居心地がよく、歩きたくなるまちなか」が重要とされています。

◎居心地がよく、歩きたくなるまちなか

■「ウォーカブルなまちづくり」とは

○地域課題解決に向けた、多様な人材の集積・交流の必要性

- ・少子高齢化など社会情勢の変化により、地域では様々な課題が発生
- ・生活様式や価値観が多様化する現代において、多様な人々が集まり、交流することが、地域課題解決や新たな価値創造などにつながる

○多様な人々を惹きつけ、交流が生まれるまちなかづくり

- ・多様な人々を集め、交流を促進するためには、人々がそのまちに魅力を感じ、訪れ、出会うまちづくりが求められる
- ・そのためには、誰もが容易にアクセスできるまちなかを、居心地が良く多様な人々の多様な使い方が共存できる、人々が「歩きたい」「過ごしたい」と感じられるような「人」中心の空間にすることが重要と考えられる

【事例】ニューヨーク・タイムスクエア

車道などを広場化、沿道の店舗等と一体的な歩行空間に整備

- ✓ 歩行者が11%増加
- ✓ 周辺店舗の売上増 など



【出典：国土交通省第33回全国駐車場政策担当者会議資料】

「居心地がよく歩きたくなるまちなか」

- ▶ 人々の交流による地域課題の解決や新たな価値の創造を促進
- ▶ まちの魅力が高まり、さらに多様な人々を惹きつける好循環

■「居心地がよく歩きたくなるまちなか」とは

Walkable（ウォーカブル） 歩きたくなる

- ・居心地が良い人中心の空間を創ると、まちに出かけたくなる、歩きたくなる。

Eye level（アイレベル） まちに開かれた1階

- ・歩行者目線の1階部分等に店舗やラボがあり、ガラス張りで中が見えれば人は歩いて楽しくなる。

Diversity（ダイバーシティ） 多様な人の多様な用途、使い方

- ・多様な人々の多様な交流は、空間の多様な用途、使い方から生まれる。

Open（オープン） 開かれた空間が心地よい

- ・道路や公園に芝生やカフェ、椅子があるとそこに居たくなる、溜まりたくなる。



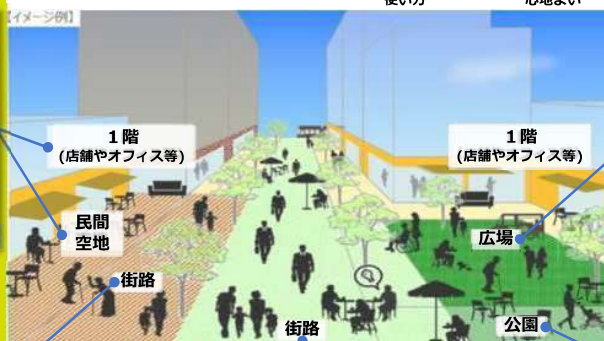
【出典：国土交通省「居心地が良く歩きたくなるグランドレベルデザイン」】

■「居心地がよく歩きたくなるまちなか」のイメージ

Walkable 歩きたくなる
Eye Level まちに開かれた1階
Diversity 多様な人の多様な用途、使い方
Open 開かれた空間が心地よい



- ・1階をガラス張りの店舗にリノベーションし、アクティビティを可視化
- ・民間敷地の一部を広場化



- ・民間の敷地に整備された広場



- ・駅前のトランジットモール化と広場創出



- ・道路を占用した夜間オープンカフェ



- ・公園を芝生や民間カフェ設置で再生

【ウォーカブルなまちを支えるモビリティの例】



時速20km未満で走り、安全な歩行環境に配慮したグリーンスローモビリティ



鉄道路駅からの二次交通など、まちなかの面的な移動の利便性を確保するシェアサイクルや電動キックボード



交通利便性が低い地域からの来訪を支えるデマンド交通

【出典：国土交通省「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会 報告書」を元に作成】

多様な人々が暮らしやすい魅力的なまちづくり

多様な居住ニーズに対応する住まいづくり・仕掛けづくりの手法

・近年、これまでの住宅とは異なり、より多様化したニーズに合わせた集合住宅や様々な交流が生まれるための仕掛けづくりがされています。

◎様々な世代の交流を促進する住まい・仕掛けの手法

■様々な企業が交流し、新たな価値を生み出す社員寮 ～月島荘～



月島荘は、下町情緒が残る月島もんじゃストリートに隣接する位置に立地しています。ポウリング場と賃貸マンションの跡地だった当地区では、当初超高層物件の建設が計画されていましたが、東日本大震災をきっかけに、地域に長く貢献できるビジネスとして「都心で働く人のニーズに対応した安価で良質な住戸を提供したい」、「異業種がともに住まう新しい住まいをつくりたい」という思いのもと、「企業寮をシェアする」をコンセプトとした開発が行われました。

<建物概要>

敷地面積6,647㎡、延床面積23,423㎡、地上8階・地下1階
3棟の建物で構成された室数644戸の大規模なシェア型住宅

<月島荘における多様な企業の交流を促進する取組>

【交流創出のための共用空間の充実】

月島荘では、居住者同士が日常的に交流できるよう、様々な共用空間を配置しています。



- ✓ 約40社の企業が入居（2024年時点）
 - ✓ 入居者のうち希望者が有志で様々なイベントを実施
 - ✓ 異業種の企業がチームを組み、商品企画等のアイデアを発表するコンペを実施するなど、新たな発見を得る機会も創出
- ➡ 多様な企業の多様な人々が交流し、新たな価値を創出



【出典：月島荘ホームページを元に作成】

■学生が地域活動の担い手となる住宅 ～ワテラス スチューデントハウス～

新御茶ノ水駅に近接する神田淡路地域は、下町の情緒の人情が色濃く残る歴史ある地域でした。しかし近年では、少子高齢化等により地域コミュニティの維持が課題となっていました。さらに、1993年淡路小学校が統廃合されたため、その跡地を活用して住宅と商業・業務施設、コミュニティ拠点としての文化・交流機能の充実を図ることを目的に、市街地再開発事業が実施されました。

住宅・オフィス・コモン機能を有するワテラスタワーと学生マンション・オフィス・モールを有するワテラスアネックスが整備され、地域住民や就労者、学生等が自由に活動し交流する場所を創出し、淡路地域におけるコミュニティのさらなる発展に寄与しています。



<ワテラス スチューデントハウスにおける学生の地域参加を促進する取組>

【学生向けの格安賃貸住宅の提供】

ワテラスアネックスの最上階に、周辺相場の7割程度の家賃で居住できる学生マンション「スチューデントハウス」を全36戸整備しています。

各住戸には浴室や洗面所、台所等を完備するとともに、共用ラウンジなどの交流空間も提供しています。



【学生が地域に関わることを条件としたルール】

学生マンションでは、地域活動団体への所属・活動への参加が入居の条件とされています。1年契約となっており、再契約が可能です。地域活動への参加状況により更新ができない場合があります。

- ✓ 学生が地域団体の活動に積極的に参加ワテラスの広場で月2回のイベントを実施
 - ✓ 学生主体のイベントや企画なども開催
- ➡ 学生と地域住民を交流を形成



【出典：ワテラス、安田不動産株式会社ホームページを元に作成】

これからの暮らしやすいまちとは？

新百合ヶ丘における居住環境の現状

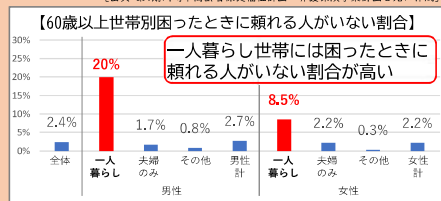
◎社会情勢の変化等によるニーズの変化

～社会情勢の変化による地域コミュニティの希薄化とニーズ・住まいのミスマッチ～

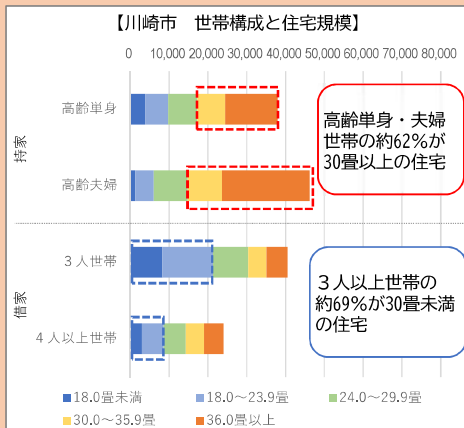
- ・近年、少子高齢化や核家族化などの進展により、高齢者（単身）世帯が増加、空き家率も上昇。高齢者単身世帯では、地域に頼ることができる人がいないなど孤立が進行。
- ・川崎市の居住空間の現状を見てみると、世帯類型別の床面積では65歳以上の単身及び夫婦世帯の持家住宅の50%は100㎡以上である一方、子育て世代を含む4人以上世帯の持家住宅の32%は100㎡未満となっており、居住者のニーズと住まいのミスマッチが発生。



【出典：第9期川崎市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画を元に作成】



【出典：内閣府 平成27年版高齢社会白書を元に作成】



【出典：川崎市高齢者居住実態調査報告書（第9期）を元に作成】

多様な人々が居住・交流できる魅力的なまちづくりや
ニーズに応じて住まいを選択できる仕組みづくりが重要

◎ニーズに応じて住まいを選択できる仕組みづくり ～川崎市の取組～

川崎市では、子育て世代へのゆとりある住まいの提供と、住まいを活かした豊かな高齢期の実現を目指し、民間事業者と連携して、既存住宅のリノベーションやリフォームなどの推進や宣伝を行うことで、住宅ストックの活用と世代間循環の促進に取り組んでいます。



【出典：川崎市ホームページ】

人それぞれのニーズに合った住宅への住み替えを促進
▶ 住宅とニーズのミスマッチの解消へ

多世代が住まえる住宅を整備した事例 ＜横浜市緑区十日市場町周辺地域：持続可能な住宅地推進プロジェクト＞

1 概要

- ・多様な地域課題の解決を目指して、企画提案型公募方式により公募を実施。
- ・市有地を活用して、民間企業による多様な住まいや地域利便施設整備を誘導。
- ・住民・企業・行政等の協働によるエリアマネジメントを実施。
- ・横浜市と事業者による50年間継続するまちづくりを推進。



2 目的

市有地を活用して、民間活力を導入することにより、周辺住宅地を含めた地域における課題を解決し、超高齢化や環境に配慮した持続可能な郊外住宅地の再生モデルの実現を図るため。



【出典：横浜市ホームページ・郊外まちづくりのレシピ～企業・大学・地域とともに～を元に作成】

- ・多世代が住まえる住宅の整備と生活支援施設の導入
- ・周辺地域を含め地域住民・民間事業者・行政などの連携・協働によるエリアマネジメントを推進

参考3

令和6年度 麻生区区民アンケート

- ・「令和6年度麻生区区民アンケート」結果（令和7年1月公表）について、新百合ヶ丘駅周辺のまちづくりに関する箇所を抜粋して掲載します。

■ 令和6年度 麻生区区民アンケート 実施概要 （概要版より抜粋）

○ 調査の目的

区民の意識、区政に対する意見やニーズ等を調査することにより、区政運営及び地域課題解決に向けた取組の参考とすることを目的とする。

○ 調査の方法

- (1) 調査地域 …… 川崎市麻生区全域
- (2) 調査対象 …… 麻生区在住の満 18 歳以上の外国人含む男女個人
- (3) 標 本 数 …… 2,000 サンプル
- (4) 標本抽出方法 …… 住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出
- (5) 調査方法 …… 郵送法（郵送による調査票の配布及び回収）
- (6) 調査期間 …… 令和6年7月12日(金)～令和6年8月12日(月)
(最終回収日：令和6年12月10日(火))
- (7) 調査委託機関 …… 山上技術士事務所

○ 調査の項目

- (1) 麻生区について
- (2) 麻生区役所について
- (3) 麻生区内の市民利用施設について
- (4) 地域活動について
- (5) 町内会・自治会について
- (6) 暮らし、生活について
- (7) 災害への備えについて
- (8) 新百合ヶ丘駅周辺のまちづくりについて
- (9) 自由意見

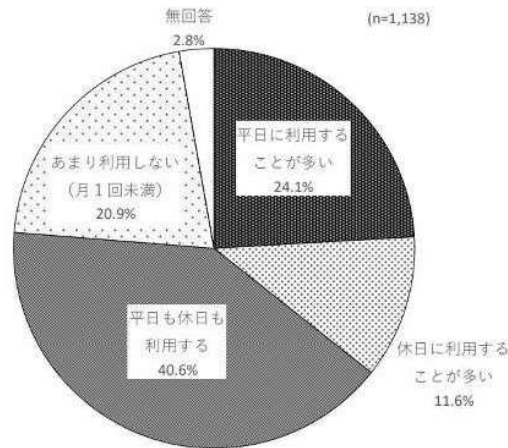
○ 回収状況

調査票配布数	回収数	うち白紙回答	有効回収数	有効回収率
2,000	1,139	1	1,138	56.9%

■ 令和6年度 麻生区区民アンケート 新百合ヶ丘駅周辺のまちづくりについて （概要版より抜粋）

（１）新百合ヶ丘駅の利用状況

新百合ヶ丘駅の利用状況は、「平日も休日も利用する」（40.6%）が最も多く、次いで、「平日に利用することが多い」（24.1%）、「あまり利用しない（月1回未満）」（20.9%）となっている。



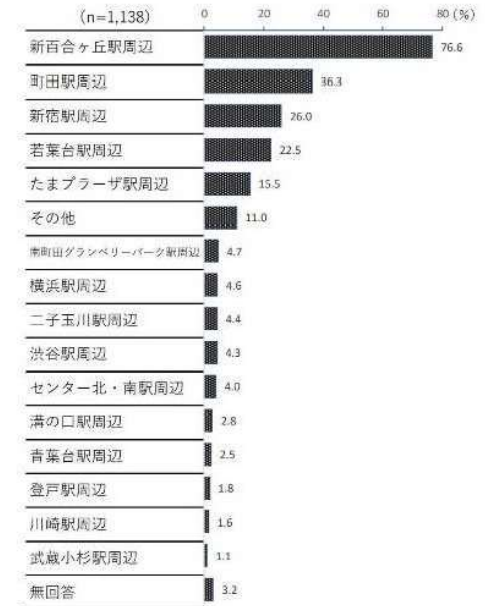
（２）新百合ヶ丘駅の利用目的

新百合ヶ丘駅の利用目的は、「最寄り品の買い物をする」（59.7%）が過半数を占め最も多く、次いで、「食事をする」（43.4%）、「買回り品の買い物をする」（27.4%）となっている。（3つまで複数回答）



（３）買い物やレジャーで行く場所

買い物やレジャーで行くことが多い場所は、「新百合ヶ丘駅周辺」（76.6%）で最も多く、次いで、「町田駅周辺」（36.3%）、「新宿駅周辺」（26.0%）、「若葉台駅周辺」（22.5%）となっている。（3つまで複数回答）

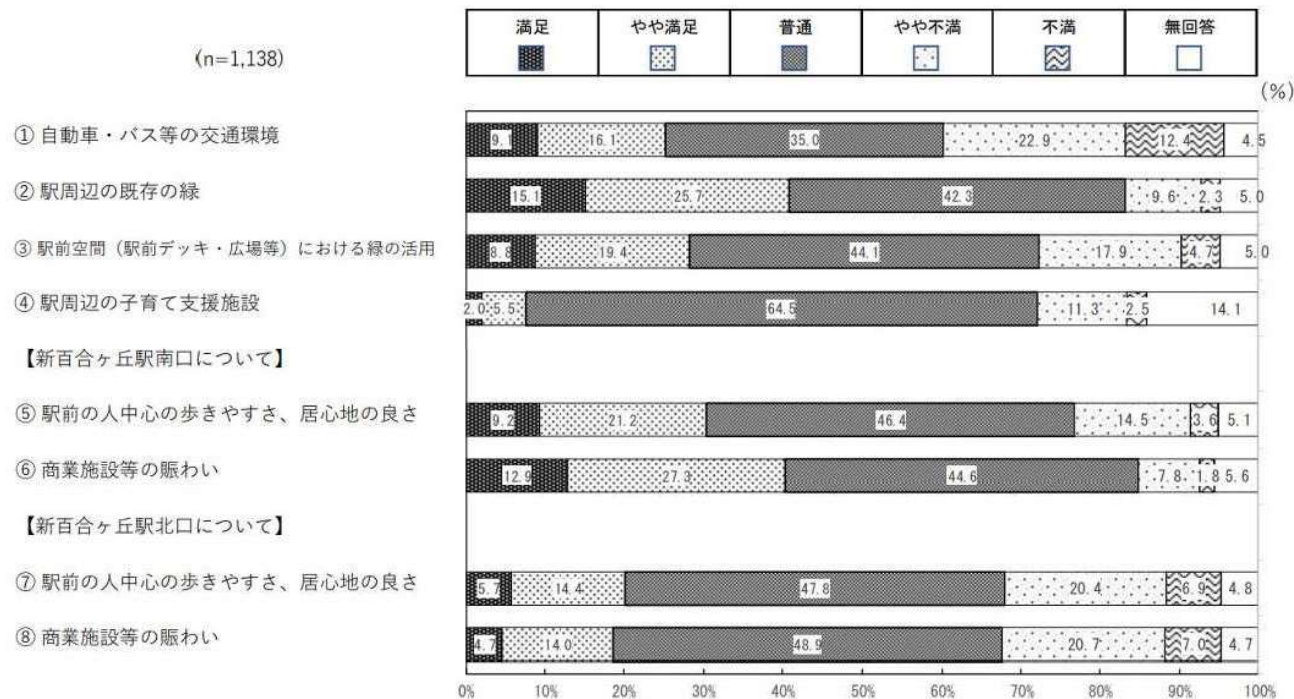


■ 令和6年度 麻生区区民アンケート 新百合ヶ丘駅周辺のまちづくりについて （概要版より抜粋）

（４）新百合ヶ丘駅周辺の状況について

新百合ヶ丘駅周辺の状況の満足度を、「満足・やや満足」と「やや不満・不満」の対比でみると、

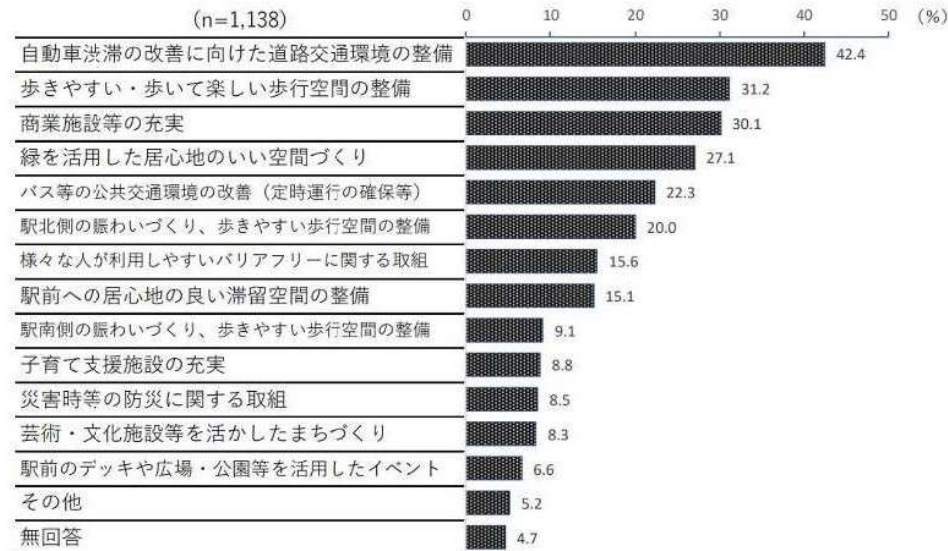
- 『① 自動車・バス等の交通環境』は、「やや不満・不満」（35.3%）が「満足・やや満足」（25.2%）を上回っている。
- 『② 駅周辺の既存の緑』は、「満足・やや満足」（40.9%）が「やや不満・不満」（11.9%）を上回っている。
- 『③ 駅前空間（駅前デッキ・広場等）における緑の活用』は、「満足・やや満足」（28.2%）が「やや不満・不満」（22.7%）を若干上回っている。
- 『④ 駅周辺の子育て支援施設』は、「やや不満・不満」（13.8%）が「満足・やや満足」（7.6%）を上回っている。
- 新百合ヶ丘駅南口について、『⑤ 駅前の人中心の歩きやすさ、居心地の良さ』は、「満足・やや満足」（30.4%）が「やや不満・不満」（18.1%）を上回っている。
また、『⑥ 商業施設等の賑わい』は、「満足・やや満足」（40.2%）が「やや不満・不満」（9.6%）を上回っており、南口の満足度は概ね良好である。
- 新百合ヶ丘駅北口について、『⑦ 駅前の人中心の歩きやすさ、居心地の良さ』は、「やや不満・不満」（27.2%）が「満足・やや満足」（20.1%）を上回っている。
また、『⑧ 商業施設等の賑わい』は、「やや不満・不満」（27.7%）が「満足・やや満足」（18.6%）を上回っており、北口の満足度は必ずしも良好とはいえない。



■ 令和6年度 麻生区区民アンケート 新百合ヶ丘駅周辺のまちづくりについて （概要版より抜粋）

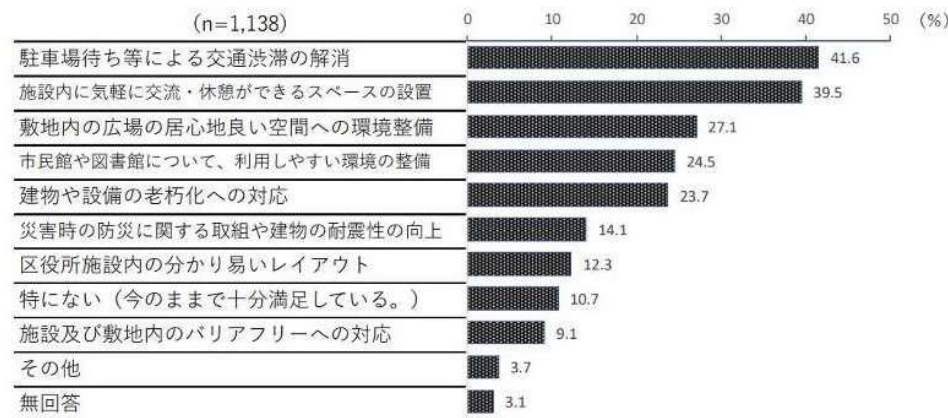
（５）新百合ヶ丘駅周辺のまちづくりで重点的に取り組んで欲しいこと

新百合ヶ丘駅周辺のまちづくりで重点的に取り組んで欲しいことは、「自動車渋滞の改善に向けた道路交通環境の整備」（42.4%）が4割を超え最も多く、次いで、「歩きやすい・歩いて楽しい歩行空間の整備」（31.2%）、「商業施設等の充実」（30.1%）が3割を超えるほか、「緑を活用した居心地のいい空間づくり」（27.1%）、「バス等の公共交通環境の改善（定時運行の確保等）」（22.3%）、「駅北側の賑わいづくり、歩きやすい歩行空間の整備」（20.0%）が2割を超えている。（3つまで複数回答）



（６）新百合ヶ丘駅周辺の公共施設で重点的に取り組んで欲しいこと

新百合ヶ丘駅周辺の公共施設で重点的に取り組んで欲しいことは、「駐車場待ち等による交通渋滞の解消」（41.6%）が4割を超え最も多く、次いで、「施設内に気軽に交流・休憩ができるスペースの設置」（39.5%）が3割を超えるほか、「敷地内の広場の居心地良い空間への環境整備」（27.1%）、「市民館や図書館について、利用しやすい環境の整備」（24.5%）、「建物や設備の老朽化への対応」（23.7%）が2割を超えている。（3つまで複数回答）



Colors, Future!

いろいろって、未来。

多様性は、あたたかさ。多様性は、可能性。

川崎は、1色ではありません。

あかるく。あざやかに。重なり合う。

明日は、何色の川崎と出会おう。

次の100年へ向けて。

あたらしい川崎を生み出していこう。



川崎市

川崎市

まちづくり局市街地整備部地域整備推進課